

平成25年7月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成25年7月22日(月) 午前10時00分
- 2 場 所 市庁本館3階 議会第1委員会室
- 3 委員氏名
- | | |
|----------|-------|
| 委員長 | 岡本潤子 |
| 委員長職務代行者 | 小柴一弘 |
| 委員 | 武輪節子 |
| 委員 | 築瀬眞知雄 |
| 教育長 | 伊藤博章 |
- 4 職員氏名
- | | |
|--------------|-------|
| 教育部長 | 佐藤浩志 |
| 是川縄文館長 | 小林和彦 |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 澤田多嘉男 |
| 教育部次長 | 嶋脇郁夫 |
| 図書館長 | 津取場重行 |
| 学校教育課長 | 齋藤信哉 |
| 教育指導課長 | 正部家光彦 |
| 社会教育課長 | 船田泰寛 |
| 是川縄文館副館長 | 前田美智子 |
| 総合教育センター所長 | 井上貫之 |
| 博物館副館長 | 小笠原善範 |
| 北地区給食センター所長 | 中里親弘 |
| 東地区給食センター所長 | 板橋稔 |
| 西地区給食センター所長 | 清川彦一 |
| 市史編纂室長 | 藤田俊雄 |
| 教育総務課参事 | 尾崎雅祥 |
| 社会教育課参事 | 田中勉 |
| 教育総務課副参事 | 小笠原光則 |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤正樹

岡本委員長	<p>ただいまから、平成 25 年 7 月の教育委員会定例会を開会いたします。 本日の議事録署名は小柴委員を指定します。 それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いします。</p>
伊藤教育長	<p>(資料に基づき説明)</p>
岡本委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
岡本委員長	<p>無いようですので、これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議いたします。</p> <p>はじめに、議案第 42 号「八戸市外国語指導員等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
井上総合教育センター 一 所長	<p>(議案第 42 号「八戸市外国語指導員等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について」に基づき説明)</p>
岡本委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
岡本委員長	<p>それでは、議案第 42 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
岡本委員長	<p>ご異議がありませんので、議案第 42 号を原案のとおり決定いたします。</p>
岡本委員長	<p>次に、議案第 43 号「平成 26 年度使用小・中学校特別支援学級用教科用図書の採択について」事務局からの説明をお願いいたします。</p>
正部家教育指導課長	<p>(議案第 43 号「平成 26 年度使用小・中学校特別支援学級用教科用図書の採択について」に基づき説明)</p>
岡本委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたしま</p>

武輪委員	<p>す。</p> <p>私の勉強不足で、このような質問が適当かどうか分からないのですが、今お話があったように、障がいの状況や程度によってということですが、またその学年の中でも、例えば4年生の中でも個々によって、また更に状況や程度が違うかと思うんです。その場合、例えば4学年で2年生の教科書を導入しましても、個々によっては4年生と同等のものが理解できるお子さんがいる場合もあります。そういう場合には、どのような形でそのお子さんに向けた教科書とするのか。それとも、その学級にいる場合には、やはり同じ教科書ということになるのでしょうか。</p>
正部家教育指導課長	<p>それぞれの子どもにに応じてということになります。同じクラスの中にも状況が違いますので、1人は例えば中1の子であっても小学校3年生4年生の算数を学ぶとか、もう1人の方は5年生を学ぶとかということで、個に応じてということでの採択になります。</p>
武輪委員	<p>ありがとうございます。もう1点ですが、自分自身が6年生なのに4年生の教科書を使うということに対しては、子どもたちはその理解というか。自分は6年生、でも教科書は4年生というところの違いについては、納得してといいいますか、その部分に関してはいかがなものでしょうか。</p>
正部家教育指導課長	<p>その辺につきましては、十分な配慮をしながら、就学指導委員会等で知的障がいの学級ということで、「君はそこで勉強するんだよ」というようなことで、保護者も含めまして、納得して使用しているものと思っております。</p>
武輪委員	<p>付け加えて質問させていただきますと、この年度の中で、例えばどんどんそのお子さんが学年が上がるにつれて、学年もそうですし、その1年間の中でも大変理解が進んで、どんどん先の方に進めるような状況の場合に、例えば今年度4月の段階ではこのお子さんは4年生だけれども2年生の教科書を使っていたけれども、もう進めていけるという場合は、その新しい教科書をどんどん与えるということも、学年の途中で教科書がまた新しくなるということもあり得るのでしょうか。</p>
正部家教育指導課長	<p>可能だというふうに思います。</p>
武輪委員	<p>全部の教科書でなくても、その教科に対しては、このお子さんは国語に関してはこうだけでも、算数に関しては進めてよいというような判断があれば、教科書</p>

	を進めていけるということですか。
正部家教育指導課長	そこは教師の判断で、今武輪委員がおっしゃったように、配慮するものと思います。
武輪委員	はい、ありがとうございました。
岡本委員長	それでは、議案第 43 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。
	(異議なし)
岡本委員長	ご異議がありませんので、議案第 43 号を原案のとおり決定いたします。
岡本委員長	<p>以上で議案の審議は終わりましたので、次に報告事項にまいります。</p> <p>はじめに、「平成 25 年度第 1 四半期の業務報告について」は、事前に資料をいただいておりますので、委員の皆様から質問がありましたらお願いいたします。</p>
築瀬委員	<p>4 月の定例会と関連したことをお聞きしたいと思っておりますが、まず最初に報告資料の 4 ページの教育指導課の実践支援グループの 5 番の特別支援教育アシスト事業と 6 番のスタディサポーター事業。これは関連するので、簡単なことで 1 つ最初にお聞きしたいんですが、5 番の特別支援教育アシスト事業のアシスタントについては、4 月の定例会では 4 月 3 日に特別支援アシスタント 30 名に対して委嘱状を交付するとあったんですけども、今回の資料では 4 月 3 日にアシスタント 31 名に対して委嘱状を交付したとあるんです。1 名増になっているんですけども、これは予算とか要望に関係した結果なのか、把握している範囲でお聞きしたいと思います。</p>
正部家教育指導課長	田代小・中学校の分が 1 人ということで 31 人です。
築瀬委員	それは予算の中で大丈夫ということですか。
正部家教育指導課長	はい。
築瀬委員	<p>分かりました。なんで聞いているかという、いろいろ関係あるんですけど、まだまだ全ての学校の要望に応える数ではないというふうに事務局でも把握していると思うんですね。できるだけ柔軟に、例えば始めは 30 名だったけど途中から増やすとかですね。後でスタディサポーターについても出てきますが、その</p>

ように予算の中で対応、あるいは市全体の予算の中で、ある時期にまだ使える分がまわせるという場合もあると思うので、やはり人的配置については非常に大事なことなので、要望を叶えていただきたいなと思ってお話ししました。

次に、同じ4ページのところで、どちらにもこの報告のところに、学校訪問時に効果的な活用についての事例を紹介していると述べておりますよね。ここについては、特定の情報になると駄目なので支障のない範囲でいいんですけど、学校訪問時にアシスタントとスタディサポーターの活用について、どんな助言をされてきているのか、代表的なところでいいのでちょっと教えていただければと思います。

正部家教育指導課長

教育相談とか教育巡回等も含めまして、あとは当課に専門指導員を配置しております。月ごとに特別支援のアシスタント及びサポーターから、この月はこういう活動をしたということで校長まで回ったものがあるんですけども、それを基にそれぞれ個々の児童生徒への関わりのところ、これはちょっとまずいんじゃないかとか、もう少しここはこういうふうにとりかき、電話、時には訪問をしてアドバイスしていると。あとは学校の中でのそういう活用についても、管理職や担当の方に話をしているということでございます。

築瀬委員

今お聞きしたのも、私も5月から7月までの間に、いくつかの学校に同行させていただきました。その際にアシスタントさんとかスタディサポーターさんの様子も見させていただいたんですね。それで、1人の先生が1人の特別な支援を要する子どもに対応するのは何とかできるんですけど、それが2人3人になると、1人の先生ではとても対応できない状況があると。それも、突発的な行動を、いきなり飛び出したりとか、そういう子どもさんが3人の中に2人いたとすれば、とても1人では抑えられないというような状況があるということを目の当たりにして、やはりアシスタント、あるいはアシスタントを配置すべきなんだけども人数の関係で配置できない。だから、スタディサポーターで配置しているというところもあると思うんです。そういった状況を見ながら、非常にこの取組というのは、大事な取組だなと思っているんです。実際に目で見てそう思っているんです。ですから、今のような細かな取組、学校からの報告ももちろんですが、実際の指導主事の方がいろいろな助言をしていらっしゃると思うので、そういったことをその学校だけではなくて、そこでの助言あるいはその学校で特徴的に取り組んでいることなどを、特定情報にならない範囲で、他の学校にも広めていただければ有難いと思いますし、訪問の際にアシスタントさんとかスタディサポーターさんに励ましの声を、私が同行しても声を掛けていらっしゃるのもとてもいいと思うのですが、これからもそういうふうに声を掛けていただければ有難いと思っています。ちょっと長くなっているんですが、アシスタン

<p>正部家教育指導課長</p>	<p>トさんとかサポーターさんは、ちょっと違う立場で学校に入っているのです、どうにかすると少数になるんですね。ですから、人のサポートというのも非常に大事な面があると思うので、校長先生が中心になってサポートしていると思うんですが、事務局の方でもその辺についてサポートしながら、この取組が本当にいいなってみんなから感謝されるように、ますます頑張っていたきたいと思って今のことをお話しました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>今のことに関連してお聞きすると、この報告資料にはないんですが、これもやっぱり4月に私お話ししたんですが、今課長さんからお話があったように、特別支援の専門指導員の方を3名配置していらっしゃると。4月当初にお聞きした時には、嶋脇次長さんから、年度当初なので今は情報収集をしている段階だというお答えがあったんですね。それから3学期制の学校でいえば1学期が過ぎましたので、この専門指導員の活用に関して、何か取組でこんなことがありましたとかいうことがあれば、支障のない範囲で教えていただければと思います。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>今日も教育巡回に出掛けておりますが、ほぼ引っ張りだこといいますか、毎日のように保育園、幼稚園の方に行きまして、そういう特別支援を要するという子の検査、あとは分析。戻りまして、資料をまとめて、またそれを就学指導の資料にするとか。あとは電話相談であるとか。具体的な動きが本当に毎日のようにありまして、3名でも足りないというような状況であります。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。これも、ある学校に同行させていただいた時に、今課長さんからお話があったんですが、こういう検査とか分析だけではなくて、実際に学校に行って、その専門指導員の方がその特別支援の担当の先生と指導主事の方と一緒に授業を参観されて、その後たぶん分科会でも一緒に話し合ったかと思うんですが、そういった場面も見ていますので、非常に効果的にそういった現場に活用されてきているなというふうに感じたものですから、今お聞きしながら、更にその活動を充実させていっていただきたいなという思いでちょっと発言しました。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>ちょっと違った視点で、報告の6ページの同じ教育指導課ばかりで申し訳ありませんが、青少年グループの5番の青少年グループ学校訪問がありますね。これについては、そこに4月から5月までで市立中学校全部の市内25校を回ってきたという報告があるんですけども、何かこの中学校を回っての感触というんですか、生徒指導上の感触というのは、これまでと何か違ったこととか、違わなく</p>

	<p>でもいいんですが、今年度の特徴とかというのは何か感じたことがあるのか。これも特定の学校の情報にならない程度で、もしあったら教えていただきたいなと思います。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>中学校の方は、今おっしゃったこの春の時期と卒業時期に訪問させていただいております。ほぼ全部私も行きましたけれども、全体とすると大変今落ち着いています。ただし、その特別支援を要するという部分で、授業中それこそ抜け出してみたり、ちょっと暴れるという言葉は適切ではないかもしれませんが、落ち着けず、保護者の方を呼んで引き取ってもらったというケースはあります。俗に言う不良的な行為であるとかということは、ほとんどないという状況であります。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。これもやっぱりその青少年グループ学校訪問の報告の最後の方に、うみねこ教室相談員が同行してそういった面からの支援もしていると書いていらっちゃって、今課長さんがお話されたのも、そういう意味もあると思うんですけども、私も現在学校が抱えている生徒指導面の問題というのは、ますます精神的、心の面のケアとか、それと同時進行しなければ進まないという例が多くなってきているように感じるんですね。ですから、やはり行動的な面だけではなくて、内面的な面も一緒に生徒指導をしていくんだといった観点が大事だと思うので、今お話を聞いて有難いなと思っておりました。ですから、私も青少年グループの学校訪問とか、青少年グループの方々に大変支えていただいたということがたくさんありましたので、学校は頼りにしていると思うんです。ですから、そういった面でこれからも大変でしょうが頑張ってくださいなと思ってちょっとお聞きしました。ありがとうございました。</p>
<p>小柴委員</p>	<p>今のお話を聞いていてちょっと思い付いたんですが、特別支援を要する子どもが夏休みに入って、学校ではある程度のいろんな指導法とかあって何とか過ごしているんですけど、家庭に戻った場合に、かなり勉強されているお父さんお母さんが多いと思いますけど、中にはその辺の知識があまりなくて、接し方がよく分からなくて、子どもさんがちょっとパニックになったりとか、そういうことがあり得るんじゃないかなという気がしますので、その辺も一つ気を配っておいていただければと思います。</p>
<p>正部家教育指導課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>4月の定例会からの続きというか、12ページの総合教育センターの6番の小学校理科支援員についても、4月の定例会でお聞きして、国の事業が一旦終わって、新たな事業として取り組み始めたという説明を受けて、本当に有難いなと思って</p>

<p>井上総合教育センター 一所長</p>	<p>いたんですけども、この第1四半期の報告では、17小学校で活用されたとあります。事業予定の方にもこれから募集していくとあるんですが、この17小学校で活用されているという数というのは、数だけではないんですが、期待どおりなのか、それとももうちょっと活用してほしいと思っているのか、あるいはそういったところが予算的にまだ活用できるゆとりがあるのかといった点をちょっとお伺いしたいと思います。</p> <p>4月からスタートしまして、小学校長会等でこういう活用があるよということで広報いたしました。そして、申込方法等が複雑であれば、学校は使いたくても書けないということで、申込みもできるだけ簡単に書いていただいているという形で行ってきています。4月5月6月と軒並み向上していて、1回使ってくださった学校では、空いているところを探して、ここで来てくれないかということで、非常に好評であります。どこが空いているかというのが分かるように、Govattというコンピュータシステムの中で、午前午後を単位として空いているところを学校から見えるようにして、それで随時申込みを得ているという状態で、センターで様々な教材研究等も行っているんですけど、そういう時間をとることなく活用していただいているという状態です。中には、新しい教材を開発してくださって、八戸ならではの実践も生まれていますので、この辺りについては夏休みに1学期開発した教材についてまとめて Govatt の方に登録して、来年の1学期にそれを各先生方が活用できるような体制を作るという、当初予定していなかった、考えつかなかった部分のいい面も出て、非常にいい状態です。</p> <p>ただ、2学期は3人では足りないという予想ですので、今回の9月議会で、更に国の予算に3分の1補助で理科の支援に関わるものが出てきておりますので、そちらを活用して、更に2学期はプラス2人で臨んで、本当に17校以外の他の学校も恐らくまだそういう効果について知らないという部分があると思いますので、引き続き広報も努めながら、そういったところも取り組んでいきたいと思えます。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。4月にもお話したんですが、とてもいい取組です。問題は、いい取組なんだけど、学校が知らないとか、先生方が面倒くさがるとか、そういったことがあれば、せっかくのいい取組も普及しないという面があるので、今所長さんがお話したように、やっぱりそこでの成果とかそういったのを宣伝していくといえますか、情報提供していくということは非常に大事なことでと思います。</p> <p>それから、先ほどもちょっと人的配置についてお話したんですが、やはりいいものだという成果が現れたら、それをきちんと訴えて、それを予算的に獲得していく。そういったことも積極的に進めていただきたいと思いますので、是非通</p>

	<p>るかどうかは別として、こういう良さがあるんだと、現場の先生方の生の声というか、それに近いもの。それから、一番大事なものは、説得力があるのは、子どもたちと保護者の声も非常に説得力があると思うんですよ。子どもたちが理科に対して非常に意欲的になったとか、そういったことも考えながら、これから積極的に取り組んでいただきたいと思っています。</p> <p>これは市教委で目指している「『わかった！できた！』が実感できる授業づくり」この取組でもあるわけなんですよ。ですから、そことやはりリンクして、市教委としての重点目標なんだということで、更に取り組んでいただきたいなと思います。</p> <p>もう1つは、今新しい教材を開発したとあるんですけども、こういったことと関連するんですが、単にこの授業とかそういうことだけではなくて、経験豊かな方々ですから、例えば校内研修の講師とか講座の講師とか、そういったことへの活用も考えられると思うんですね。こういった活用というのは、あるものですか。それとも、時間的ゆとりがなくて今はできない、あるいは考えていきたいというようなことがもしあったら、お聞かせいただきたいです。</p>
井上総合教育センター 一所長	<p>非常に力を持った方々で、現役の頃から様々なところで講座の講師を務めたりと、そういった経験もおありですので、そういった活用もできるかと思います。ただ現状では、各学校の要望に応えるほうが最優先ですので、そちらの方で3人の方々は手一杯じゃないかなと思っています。</p>
築瀬委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
小柴委員	<p>これ毎回私気になるのですが、2ページの2番の八戸市奨学生です。募集人員に比べて応募者数が非常に少ないなというようなことを感じます。この不況でこの数なのかということですが、やはりどうしてこうなのかということを私なりに考えると、複数の奨学金を希望してしまって、卒業してからそれを返せない。未払いが非常に多くなっている。それで、その辺の指導がかなり強くなっているから、こういうことが起きているのかなとか、いろいろ考えるのですが。あとはPR。これまでもPRされてきているわけですけど、もしこの辺が不足なのであれば更にこのPRに努めて、これを知らないために大学に行けない、あるいは高校に進めないというような子どもさんをできるだけ減らしたいなと、こんな感じを受けています。この数字をどう見ているのかというのを伺いたいんですが。あるいはその対策っていうんですかね。</p>
齋藤学校教育課長	<p>募集人員に対して応募者数が少ないというお話ですが、昨年度から予約制の奨学金というのを設けました。これは大変好評だと捉えています。一つの理由とし</p>

では、予約制をやることによって4月のスタート時から奨学金をもらうことができると。あとのものについては、やはり手続き等があって実際に貰えるのが6月とかその辺までずれ込んでしまう。そういった部分が予約制と今までやってきた奨学金との大きな違いかなと思っていました。

八戸市の奨学金の場合には、条件は他の奨学金に比べて、大変他の奨学金にないものを持っているのではないかなと思っています。まず1つは、返済のための利息がないという部分ですね。それから、状況によってはその返済の期間を延長することができるかですね。そういうような条件を見れば、借りるための資格と言いますか、条件もそんなに難しい条件ではないかなと思っていました。ただ、やはり今も言ったように、従来からの奨学金の人数が少ないということは、これまでも広報の部分でも、今までは八戸市の広報とか新聞とか、様々な部分を通じて広報してきてはいるんですけど、まだ足りないのかなというところは否めない部分であります。あとはやっぱり現実を見ると、奨学金を借りる方々も、二重に他の奨学金も併用して借りているという方も結構おりますし、また他の奨学金の制度の方にどうしてもという方もいるので、条件はそれぞれ違うわけですが、やはり何かしら見直さなければならない、課題みたいなものもあると思います。それについては、これからも検討して、広く有効に使える奨学金を目指していきたいなと思っております。

小柴委員

やられている事だとは思いますが、先生方もおそらく進路指導の時に個別に話している時に、経済的に困っているんだということが分かった時に、こういう奨学金もあるんだよというようなことを先生方の口から伝えられるように、先生方へのPRも、従来やられているでしょうが、更にこうやっていただければと思います。

築瀬委員

これも4月にお聞きしたことに関連するんですが、社会教育課の8ページの4番の家庭教育のところ、子育て・親育ち講座ということなんですが、4月にお聞きした時、昨年度の実績は19校16講座ということで、まだ予算的にはちょっとゆとりがあるというお答えだったんですが、私、この講座は、家庭教育が今非常に重視されている時代ですので、基本的に非常に大事な取組だと思っているんですね。この報告を見ますと、まだ2学校2講座ですね。予定を見てもまだ1校1講座ということなので、ちょっと数的に少ないのかなというふうにこれを見たんですけども、この点についてはどのように判断していらっしゃるのか。これからの取組は次だと思っていますが、その辺についてちょっとお聞きしたいんですけども。

船田社会教育課長

確かに少ない状況ですけども、年度当初の広報に加えて、更に今度9月頃とか

	<p>にもまた小学校長会、中学校長会で。また、継続事業ですので、学校のいわゆる学校行事の編成会議をやられる2月とか。年3回ぐらい学校の方にはプッシュしていきたいなと思っています。併せて、幼稚園協会、保育園協会等にももう一度PRしていきたいなと思っております。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。何回も言うんですが、現代の社会状況を考えると家庭教育というのは非常に大事で、子育て、親育ちとなったのは最近というか、この講座の名称変更もありましたよね。そういった意味で、趣旨があるので、私は社会教育課だけではなくて、学校教育部門、教育指導課なり総合教育センターなり、学校教育指導部門との連携というか、そちらの協力も得ながら、学校に利用促進していくといったことも必要かと思っておりますので、その辺のことも、社会教育分野だけではなくて、学校教育分野の方の担当の方もちょっと気に留めていただいて、何かの校長会なり様々な会議の時に、この辺の重要性をお話していただければ有難いなと思っています。</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>ありがとうございました。私は感想ですけれども、今の親育ちの件に関しては、親ってどうやって育っていくのかなというのはいつも感じています。いろんなお話を聞くということが、今皆さんいろんな知識はお有りになるので、言葉で言ってそれを聞きにおいでになるというのがなかなかない現状だというのは、皆様方もよくご承知のとおりだと思うんですけれど、そうしたらどうやって親は育っていくんだろうというところを、もう少し言葉以外のもので何かないかなということは、私も日頃、どういうふうにして伝えていったらいいのかなと。自分で体験するという何かそういうものがあればいいのか。自分の体を動かして何か感じるものがあればいいのか。なかなか講演だけでは難しいだろうなということは、常々感じていることですので、皆様方のお知恵も出しながら、そういうことも考えていくことが出来ればと思います。体を使ってといっても、運動すればいいのか、ダンスをすればいいのかではないんですけれども、何かそういうものを違った視点で、探していくということも必要ではないかなということを感じました。</p> <p>また、教育指導課の学校訪問の後に、まとめ会議をなさっているということが書いてあるんですけれども、やはり現場というのは、ただただ必死になりがちだというのは自分も感じる場所ですけれども、それを外から見ていただいて、自分の次に活かせるというのは素晴らしい内容だなと思って拝見しました。わざわざお届けまでなさっているということも書いてありましたけれども、具体的に示せるというのは教員にとっても有り難いことなので、このように丁寧にしていくということも非常に大事なことなんだろうなと思います。こういうことがいろんなところでなされているとは思いますが、気付きというのは、教育はあまり社会に迎合してはいけないとは思いますが、ある程度風通しを良くし</p>

齋藤学校教育課長	<p>て、いろんな事を知っていくということは、有り難いことだなと思って拝見しておりました。</p> <p>先ほどの奨学金の事で補足させてください。先ほど小柴委員から奨学金の件でありましたけれども、数的には少なくなっているということでしたが、そこを訂正させてください。先ほど予約制を昨年度から導入したということで、好評であるというお話をしましたけれども、これまで従来の奨学金を借りていた方も予約制の方に流れていると。よって、全体的な人数は、奨学金の申込みをされる方は増えているという状況です。ただ、使い勝手の良い予約制の方に流れているということです。決して少なくはなっていないくて、好評ですので、よろしく願います。</p>
小柴委員	<p>はい、分かりました。</p>
岡本委員長	<p>それでは次に、「平成 25 年度第 2 四半期の主な事業予定について」ご質問がありましたらお願いします。</p>
築瀬委員	<p>これもちょっと数になるので、担当者がいらっしやらないとあれなんです、予定の 3 ページの教育指導課で、先ほどと関連するんですけども、6 番のスタディサポーター事業の 2 つ目のポチところに、これから 4 名の配置を予定していると書いていますよね。ここのところは、4 月 3 日には 40 名に対して委嘱状を交付するとあって、委嘱状も交付したわけですけども、この後期スタディサポーターを 4 名配置するというのは、この 40 名にプラスということでしょうか。それとも前期後期の違いがあるということでしょうか。</p>
正部家教育指導課長	<p>40 名にプラスということでございます。</p>
築瀬委員	<p>そうすると、これも当初の計画よりちょっと多めに配置できたというふうに解釈してよろしいですか。</p>
正部家教育指導課長	<p>はい。</p>
築瀬委員	<p>大変いいですね。さっきから人的配置のことばかり聞いていますが、学校も子どもたちも保護者も、非常に支えになると思うんですね。ですから、先ほども言ったように、これからも可能な限り配置できるように、予算獲得をしていただきたいというふうなことを考えておりました。事務局も大変だと思いますが、頑張っていただきたいなと思っています。ありがとうございます。</p>

<p>築瀬委員</p>	<p>これは8ページになるんですが、教育センターの3番の教育相談・適応指導教室事業というところなんですが、ここに予定が書いてあるんですが、第1四半期の報告では、スーパービジョンを5月に、拡大スーパービジョンを6月に実施したという報告があったんですけども、この第2四半期にはいわゆる事例会議というものは予定されていないというふうに理解してよろしいのか。それと、10月以降の第3四半期以降に開催するとか、定期的に行っているとかということがあったら教えていただきたいのですが。</p>
<p>井上総合教育センター 一所长</p>	<p>このスーパービジョン、拡大スーパービジョンとか、そういった事例会議につきましては、定期的に行っております。小さなものはもう毎日行っておりますし、その中で本当に大きなものについては定期的に、また緊急性のあるものについては、緊急的に行うというようなことも取り組んでおります。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>特にここには予定としては入れてないけれども、継続的に行っていくということですね。</p>
<p>井上総合教育センター 一所长</p>	<p>はい。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>それで、他の教育活動についても言えることなんですけれども、この事例研究というのは非常に大事な取組だと思うんですね。教育相談だけではないんですが。具体的な事例に即して検証していく、研究していくということは、具体的な手立てがイメージできるということですよ。簡単に言えば、より具体的になるということなので、是非こういう活動は継続的に進めていってほしいなと思っています。ここになかったので、ちょっとお聞きしました。安心しました。</p> <p>それともう1つは、こういう内部での取組について、いわゆる特定の個人情報にならない範囲で、各学校への情報提供とか、勉強の資料とか、そういったものに使っていると思うのですが、具体的にケース会議で話されたこととか、成果や課題については学校にどういったことをやっているのかなと思っているんですけども。</p>
<p>井上総合教育センター 一所长</p>	<p>まず、こういうケースで出てくるのは本当に具体的なことですので、なかなか取り扱いが難しいところなんですが、その中でやはりうちの方は適応指導ということで、発達のアンバランスによって周りの子どもたちとの対応がうまくいかなくて、それが元でトラブルが起きて不登校になっていくと。そういったところを未然にどうしたら防げるかということで、先ほどもありましたが、指導課の青少</p>

	<p>年訪問に同行させていただいて、小学校の低学年の子どもたちの様子とか、そういうものを聞き、低学年の1、2、3学年に関してはうみねこキッズということで、発達に関する適応のトレーニングを行っていますけど、そういったところに活かしたり。それから保護者の方々からの電話相談、育児に関するものとか、そういったところに活かしたり。また今回、この拡大スーパービジョンを更に拡大して、各学校の先生方も参加できるような形で準講座的なものにして、外の方々に入ってもらったりとか。そういう様々な取組を行っております。ある程度のところ、本当に今築瀬委員がおっしゃったように、成果をまとめて学校の方に公表できればいいんですけども、本当に具体的なので、なかなか個別の情報に関しては難しいなど。ただ、年数が経って一般化されてきたようなことについては、本当に必要に応じて各先生方に情報として提供したり、また本等になっている部分についてはこんな本があるよという紹介もできればいいのかなというふうに考えております。</p>
<p>築瀬委員</p>	<p>ありがとうございます。なかなかこういう会議、事例、ケース会議でも何でもそうなのですが、なかなかそこで言えないこともあったりして、学校に帰って担任の先生がなかなか言えなくて困っているということもあると思うので、やっぱりその担任の先生の気持ちに寄り添いながら、そういった情報提供とかアドバイスとか、これからも続けていっていただければ有り難いなと思っています。よろしくお願いします。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>6ページの社会教育課の(5)番の三社大祭山車祭り行事調査についてですが、こちらは毎年このような新羅神社、霧神社、神明宮の神事を調査しているのか。今年初めて目的があって調査をしたのか。</p>
<p>船田社会教育課長</p>	<p>これは毎年やっております。神社の祭礼、前夜祭から神事。あるいは、山車についても若干、行列についても毎年代表的な写真は、少しは撮っていますけれども、主に神社の祭礼行事等は毎年撮っております。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>目的というのは、これから何か資料作成のためにということでしょうか。なぜこんなことをお聞きしているかということ、実は中心街に住んでいたりと、その神社に関わる小学校や中学校のお子さんたちは、いろんな意味で三社大祭には非常に興味を持ったり、もちろん引き子なり囃子で参加されている児童生徒さんが多いと思うんですが、離れたところの子どもたちは、意外に八戸市のお祭りとして三社大祭というものがあっても、なぜ三社大祭なのかということから知らない子どもたちも多いと思うんです。また観客として見るというだけだったり、もしくはなかなか平日であれば親御さんと一緒に来れなくて、なかなか見る機会も</p>

<p>船田社会教育課長</p>	<p>なかつたりということで、八戸市内の子どもたちの中でも意外と三社大祭に関しては、興味が薄かったり、知識がないお子さんもいるかなと思ひまして、何かしら子どもたちに向けてのそういう資料なりの作成が目的なのかなというふうになつちよつと思つたので、お聞きいたしました。</p> <p>特に子どもたちのためという目的ではないです。</p>
<p>小保内社会教育課 文化財GL</p>	<p>三社大祭が国の重要文化財に指定される時に、報告書ということで分厚いもの作つてはいるんですけど、それは指定された時の姿です。毎年調査しているのは、そのとおりにつていふのか、ちよつと変化しているのか、実際はやはり変化があるんですけど、そういうのを追跡調査、確認調査しているという状況になります。子ども向けとか、一般向けということになりますと、コンベンションさんの方で作つてはいる薄いもの、有料ですけども、あちらが一般向けつていふ形で。社会教育課の方は、非常に専門的な内容の本になつてはいました。</p>
<p>武輪委員</p>	<p>ありがとうございます。新聞社さん等でもその時期になりますと、大変詳しい内容のものが出ておられますので、それを見ると非常によく分かるんですが、子どもたちがなかなかそこまで新聞を広げて見たりということもないので、もしも何かの機会で、学校のほうでも三社大祭について、社会の勉強の中で行つてはいる部分もあるかと思ひますが、私たちの大事な宝でありますので、子どもたちにも伝えていきたいなと思ひつてはいます。</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>他はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは次に、「新学校給食センター建設事業に係る厨房機器業者について」報告をお願いします。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>(資料「新学校給食センター建設事業に係る厨房機器業者について」に基づき説明)</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>ただいまの報告につきては、ご質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
<p>岡本委員長</p>	<p>それでは次に「平成25年度八戸市民大学講座（後期）について」報告をお願いします。</p>
<p>船田社会教育課長</p>	<p>(資料「平成25年度八戸市民大学講座（後期）について」に基づき説明)</p>

岡本委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
岡本委員長	<p>それでは次に「平成25年度退任・新規外国語指導助手（ALT）の交代について」報告をお願いいたします。</p>
井上総合教育センター 一所長	<p>(資料「平成 25 年度退任・新規外国語指導助手（ALT）の交代について」に基づき説明)</p>
岡本委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
岡本委員長	<p>それでは次に「『青少年のための科学の祭典2013』八戸大会について」報告をお願いいたします。</p>
井上総合教育センター 一所長	<p>(資料「『青少年のための科学の祭典2013』八戸大会について」に基づき説明)</p>
岡本委員長	<p>ただいまの報告につきまして、ご質問がありましたらお願いいたします。</p> <p>(質疑なし)</p>
岡本委員長	<p>それではないようですので、そのほか事務局から報告事項がありましたらお願いいたします。</p>
岡本委員長	<p>ないようですので、それでは「その他」で委員の皆様から何かございましたらお願いいたします。</p>
岡本委員長	<p>それではこれを持ちまして、平成25年7月の教育委員会定例会を終了いたします。皆様方、いい夏をお過ごしいただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(午前 11 時 15 分終了)</p>